

ようすいはつでんしよ

揚水発電所とは

電気でんきの使つかわれる量りやうは一日いちにちのうちで大きく変わります。電気でんきの使用量しやうりやうが少ない時間すくに下部じかんの貯水池かぶ（津久井湖ちくいこ）の水みずを上あ部の貯水池おお（城山湖じやうさんこ）にくみ揚げ（「揚水」といいます）、多い時間みずにこの水りやうを利用して電気でんきを作ります。この発電方法はつでんほうほうを揚水式発電ようすいしきはつでんといいます。城山発電所しろやまはつでんしよもこの方法ほうほうで発電はつでんをしています、上部じやうぶの貯水池ちやうすいちに川がわから流れ込む水ながが全こくないので純揚水式発電所じゆんやうすいしきはつでんしよといひます。

最近さいきんでは、昼間ひるまの太陽光たいやうこうで発電はつでんした電気でんきが余あまったときに、この電気でんきを利用して揚水りやうを行ようすいい、太陽光発電おこなが停止たいやうこうはつでんする夕方以降ていしの時間ゆうがたいこうに発電じかんする機会はつでんも増えており、再生可能エネルギーきかいの活用ふや電気さいせいかのうの使用量かつやうの平準化でんきにしやうりやうも貢献へいじゆんかしています。水力発電きゆうは発電機でんきの起動・停止たが容易きんきゆうであることから、他の発電所はつでんや送電線だいいの故障やくわりなど、急に電気きゆうが足りなくなったときに緊急きんきゆうに発電はつでんすることも大事な役割だいじのひとつです。

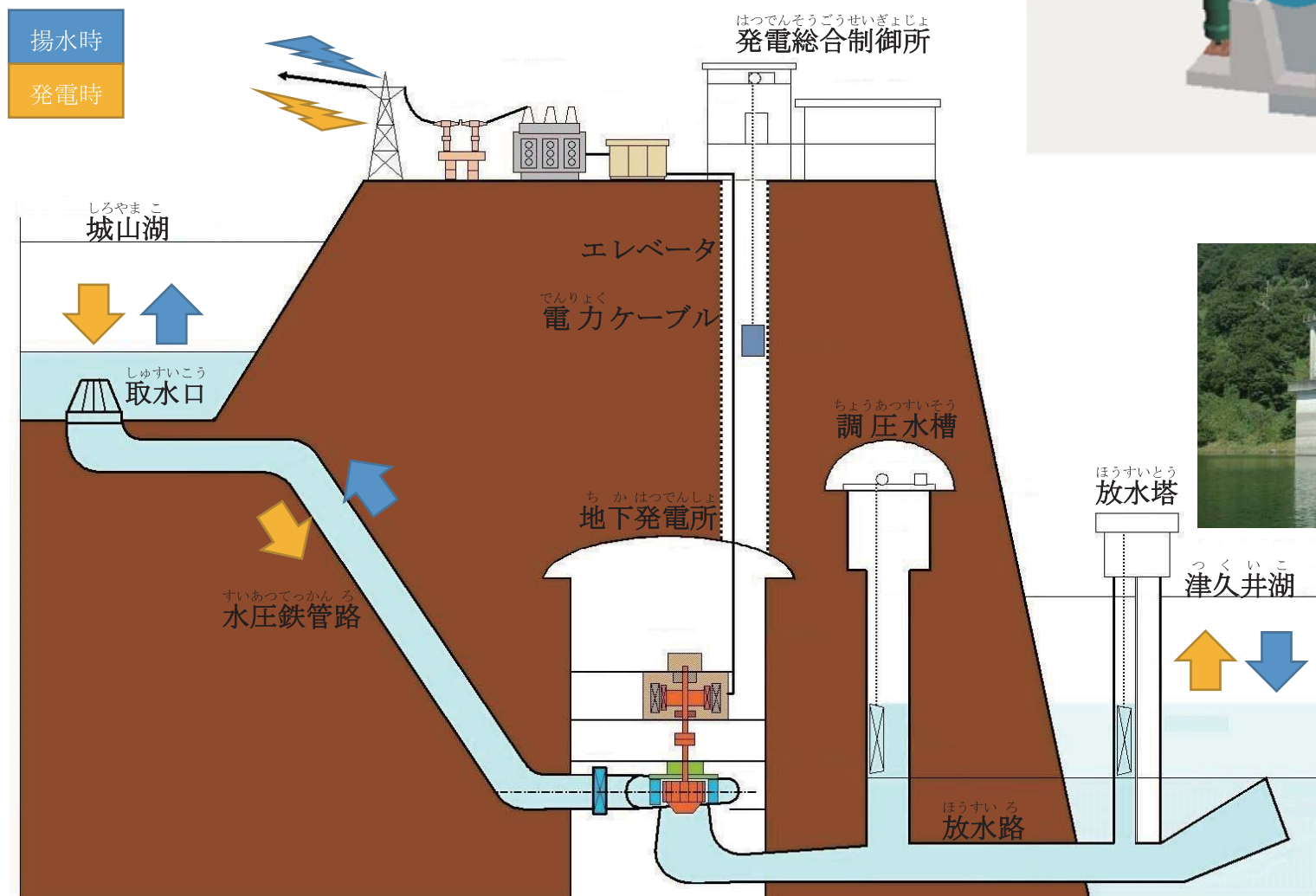
- 本沢ダムと城山湖
上部の貯水池です。深さは28mあり、発電に使える水の量は383万5千立方メートルです。



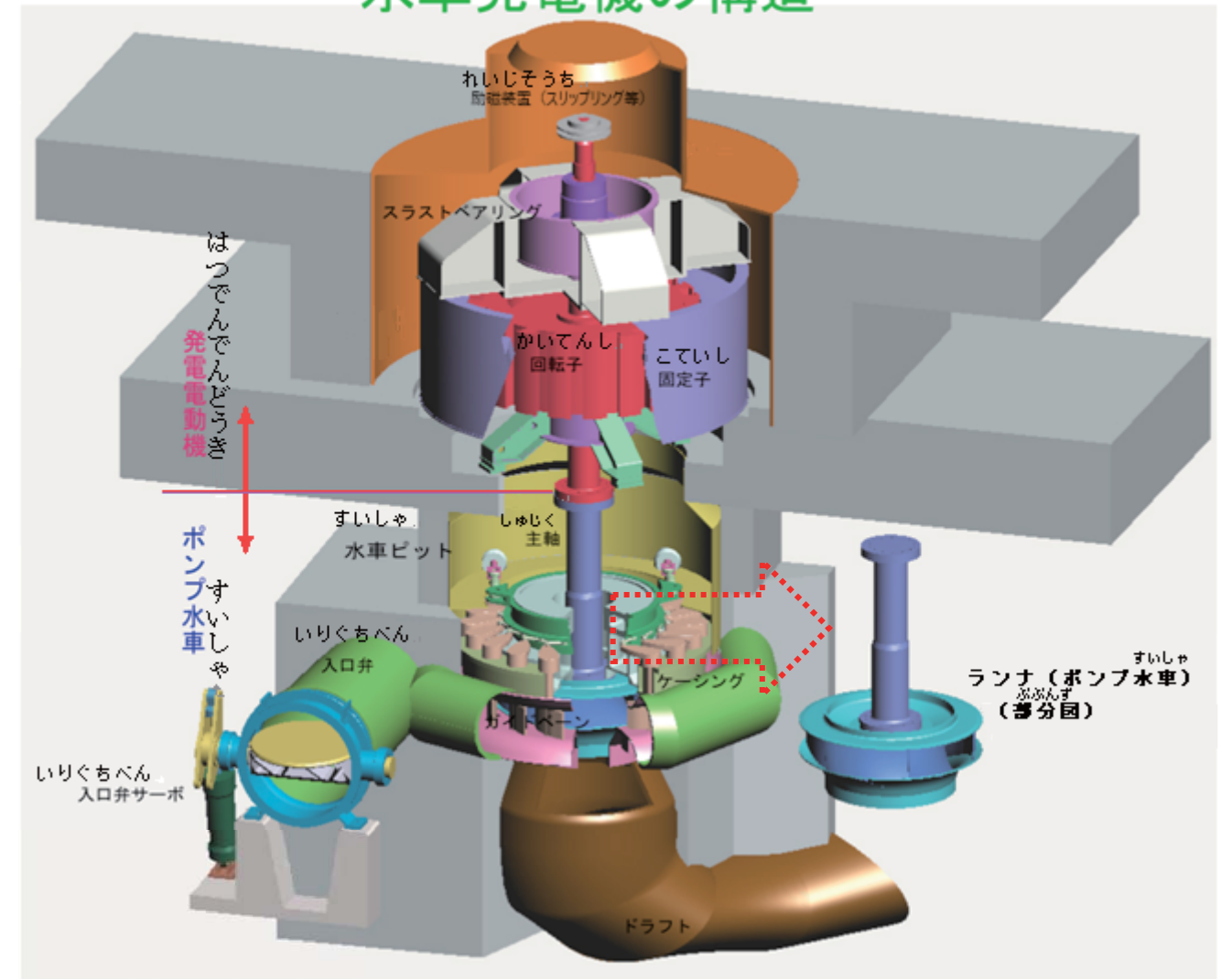
- 取水口
城山発電所の城山湖側の水の取り入れ口です。普段は、水の中で見えることはできませんが、城山湖を干池したときに現れます。



- 監視制御室
県内13か所の県営水力発電所の遠隔監視制御業務を24時間体制で行っています。地下にある城山発電所の運転停止もここでを行います。



水車発電機の構造



- 放水塔
地下発電所と津久井湖をつなぐトンネルがこの塔の下にあります。



- 城山ダムと津久井湖
下部の貯水池です。津久井湖の水を城山湖へ揚水することで、発電が可能になります。

